



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

三蔵五訓

真理を探求し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。

2017.12.10 Vol. 154



揺るぎなく前進！

トピックス	1
第43回 三蔵祭	5
地域連携活動	7
国際交流瓦版	9
学友会短信	10
頑張る福大生	11
訃報	14
後援会情報	15
入試情報	15



福山大学イメージキャラクター
「ふくりん」

TOPICS

第3回 福山大学研究成果発表会を開催！

2017年度第3回福山大学研究成果発表会「備後ブランドの萌芽を探そう」が、平成29年6月28日(水)に福山市ものづくり交流館(エフピコRIM7階)において開催されました。この研究成果発表会は、本学の5学部14学科及び研究センター等の教員が行った研究の成果を、備後地域の企業及び高校生や地域住民など多くの皆様方に発信していくことを目的とする福山大学教員による研究成果発表会です。

研究成果発表会は、前半の特別講演会と後半の研究成果ポスターセッションに分けられ、前半の特別講演会は収容人員105人のセミナールームAで行い、後半の研究成果ポスターセッションは2つの市民ギャラリーA及びB間の仕切りを外して広くなったフロア一会場で行われました。前半の特別講演会は、都祭弘幸社会連携センター長(工学部建築学科教授)の司会によって開会し、松田文子学長より講演に先立って、福山大学と広島銀行との連携企画による研究成果発表会は今回で2回目になることや福山大学は備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる「未来創造人」の育成を目指していること、また持続可能な地域社会の構築に向けて、全学をあげてブランディング推進のための研究プロジェクトを立ち上げて多様な展開を始めていること、さらにこれと関連して「教育・研究支援基金」を創設して広く外部からのご寄付を仰いでいることなどの挨拶がありました。そして、松田学長の挨拶に續いて特別講演会が2演題行われました。最初の講演者は、一般財団法人ひろぎん経済研究所の理事であり、経済調査部長である岡崎裕一氏で「広島県の観光」と題して講演を行っていただきました。観光によって経済効果を高めるためには、地域の魅力を引き出して宿泊する観光客を増やすことが重要で、各種の地域づくりの取り組みを相互連携させて素晴らしい景色のある観光地を効果的に形成する必要があるなどの講演内容でした。次の講演者は、本学の学長補佐(研究担当)である仲嶋一教授(工学部スマートシステム学科)で「瀬戸内の里山・里海学～生態系、資源利用と経済循環そして文化～」と題した福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトについての講演でした。このプロジェクトは、備後圏域の瀬戸内の里山・里海の生態系、資源利用と経済循環及び文化に関して、本学の多角的学際性を活かした研究を推進するプロジェクトで、備後圏域の産業の活性化に資する新しい知とテクノロジーを得るとともに、地域の産業界とともに新規産業を醸成する仕組みを作り、自然と共生しつつ地域経済を活性化させる未来型の地方創生を目指すもので、この事業で得られた研究成果を本学全体の教育に取り入れて、地域産業界で活躍できる学際的視点を持つ人材を育成及び輩出することによって福山大学のブランド力や地域人材力も同時に強化する目的のために、里山・里海学を選択し、様々な事業を展開していることなどについての講演内容でした。この2つの講演が行われた会場は、聴講者で満席となりました。後半の研究成果ポスターセッションは、発表者が作成したポスターを縦120cm×横180cmの展示パネルに掲示して発表するポスターセッション方式で行われ、発表総数はブランディング事業や研究・教育支援基金対象研究

も含めて64題でした。また、特別講演会場と研究成果ポスターセッション会場の受付では、今回の研究成果発表を編集した2017年度版研究成果発表集や全教員の2017年度版研究者情報一覧の冊子を配布しました。これらの冊子は、電子版として福山大学社会連携センターのホームページに掲載していますので自由にご覧いただけます。発表者は、聞きに来られた方へ研究に至るまでの背景やその目的を達成するための方

法、研究で得られた成果とその応用事例、さらには研究内容に関連する共同研究や受託研究の可能性等をわかりやすく説明とともに、発表教員間では学部・学科を超えた様々な意見交換も行われました。今回の研究成果発表会の来場者数は、特別講演会が約110名で、研究成果ポスターセッションが約140名でした。来場者に記入していただきましたアンケートによりますと、40代～60代の福山市内の男性の方がほとんどで、研究成果発表会は「とても良かった」が67%、「良かった」が26%、「普通」が7%でした。研究成果発表会に興味を持った理由は「研究に魅力」が73%、「役に立ちそう」が18%、「大学を知りたかった」が9%でした。発表者の対応・展示ポスターは「とても良かった」が62%、「良かった」が23%、「普通」が15%でした。さらに、研究成果ポスターセッションの理解を深めるための少数セミナーの企画に「興味がある」が約86%で、研究内容に興味を持たれている方が多くなっています。このアンケート結果を見ますと、研究成果発表会の内容や発表者の対応・展示ポスターはとても良く感じられた方が多く、また研究に魅力を感じて来られた方や役立てようとして来られた方、そして興味のある研究の少数セミナーが開催されれば参加してみたいと回答された方が多いことがわかりました。

研究成果発表会は、福山大学の研究力を一般に公開するために来年度以降も継続的に開催する予定にしており、研究成果を情報発信することによって、福山大学教員のシーズと外部企業や機関などのニーズとのマッチングがスムーズに構築できればと思っています。

社会連携センター 助教 中村 雅樹



福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトが採択！

福山大学では、平成27年度に策定された福山大学ブランディング戦略に沿って、備後地域の地の拠点としての本学の魅力を研究活動を通してわかりやすく伝え、本学のブランドイメージを社会に浸透させることを目的に研究プロジェクト「瀬戸内の里山・里海学」を展開しています。本事業は、松田文子学長の強いリーダーシップの下、統一されたテーマに向け全学で協力して研究プロジェクトを構成し、総合大学の強みとしてシナジーを発揮して、より高度で深みのある研究成果を得ることを目指しています。テーマは全学に公募し、教員の投票審査によるコンペティションで決定しました。本学の所在するこの備後圏域は、全国でも有数の里山地域であり、豊穣の里海「瀬戸内」の中心に位置し、島嶼の集中した「しまなみ」の入り口ともなっています。また、備後圏域は歴史的にものづくり産業で栄えた地域であり、機械金属工業をはじめ、繊維・木工・食品など特色ある地場産業が集積した地方都市群を内包し、歴史的遺産も多い人と自然の関わりの深い地域でもあります。一方、近年では地球規模での環境の悪化や生物多様性の消失の危機が叫ばれる中、人との関わりの中で生物多様性を育む里山・里海が重要視されています。本学は、前述のように里山・里海の自然に囲まれ、かつ産業の盛んな都市群を有する備後圏域中心に位置し、これから里山・里海を考える上で絶好のポジションにあります。このような地の利を活かし、里山・里海の生態系を研究して自然共生社会への道を模索するとともに、それを維持しつつ資源を利用し、ものづくりを含む経済活動や文化活動を活性化し、地方創造することで未来のまちのあり方を提示する「瀬戸内モデル」を構築していくというのが、このプロジェクトの大目標となります。

現在、里山・里海の自然を解明する研究をはじめ、里で生活する我々の経済・産業、文化、暮らしに関する11の研究プロジェクトが活動しています。自然の探求に関するプロジェクトでは、里山・里海の生物多様性涵養機能の解明と里山・里海の生物に対する人の影響を推定するため、DNA解析を用いた生物分布の特定や自律海中ロボットを用いた藻場の生物群の直近観測、動物に観測機器を取り付けたバイオロギングによる動物目線での生態系の観察など、生命工学部と工学部の最先端のテクノロジーを融合して里山・里海の自然や生物多様性の研究を行っています。藻場は微小生物が繁殖し、それらを餌とする稚魚が隠れ家とする近海魚類のゆりかごですが、詳しい生態は未だ解明されていません。この稚魚時の生態を解明することは、完全養殖で課題となっている孵化から稚魚までの損失を抑え、今後ますます重要度の増す養殖産業の生産効率の向上につながると考えられます。さらに、里山・里海の資源を利用し、経済の活性化を図るプロジェクトとして、先の生態系研究の知見に人工知能等の最新テクノロジーを加えた水産養殖システムの開発、酵母研究に基づく新たな果実酒の研究や瀬戸内の果実を利用した生物工学、物理工学、健康科学の視点からの新しいジャムの開発などを行っています。特に、シロギスに関しては商品価値の高い「鉄砲ギス」と呼ばれる20cm以上の体長に育成する養殖技術を開発し、地元のタウン誌Winkや読売新聞に掲載されました。また、経済の活性化として、道の駅等における市場調査に基づいた高付加価値の農林水

瀬戸内の里山・里海学



里山・里海の自然の把握

- 先端テクノロジーによる生物多様性涵養機能の解明



里山・里海の歴史・文化的理解

- 自然と共生し、持続可能で住みやすいまち・くらし
- 地域と連携した里山・里海教育



里山・里海の資源利用と経済循環

- 長期的観点から見た自然・文化研究の重要性の啓蒙
- 文化観光資源の開拓



里山・里海の資源利用と経済循環

- 瀬戸内しさ、六次産業化、農商工連携



加工品により経済循環を引き起こすシステムの研究、豊富な農林水産資源を生かし国内外観光客の受入れ増加を推進する6次産業化の推進、その製品開発、消費・輸出の拡大や知的財産権保護の実態とその活用可能性の研究等を行っています。さらに、文化としては、備後圏域の里山・里海社会の歴史と文化を保存することで地域社会の未来像(新しい里山・里海像)を構築し、地域遺産として継承することやそれらに文化観光資源としての価値を見出し、地域の魅力づくりにつなげることを目指しています。例えば、古文書等による里山・里海の生活文化・歴史の把握に関する研究、里海文化を色濃く残す福山市鞆の浦を中心に最新のCG・映像テクノロジーを駆使して建築物等の歴史と文化を保存し、新たな文化観光資源としての価値を明確化する研究、蘭草栽培や備後表のプロセス解明を始めとして有形無形の地域遺産を保全・継承する研究等を行っています。また、この研究プロジェクトの中から課題を里海に絞り込んだ「瀬戸内海しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援・教育」というテーマで、平成29年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に応募し、採択されました。

以上のような研究活動とその成果により、社会の発展に貢献することは教育基本法にも明記されている大学の使命ですが、研究は人を育てるうえで非常に重要な要素を含んでいます。研究を遂行するためには、先人の研究や知見を熟知したうえで、物事を様々な視点から深く探し、誰もが未だ行っていない結果の見えないことに向かって果敢に挑戦していく姿勢が不可欠です。このような温故知新、進取の気質は地域や企業の次世代を担うリーダーにとっても必須の姿勢であり、研究がそれに取り組む学生を次世代のリーダー、本学が提唱する教育コンセプト「地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる“未来創造人”」を育て上げる原動力となるものと確信しています。

学長補佐(研究担当) 教授 仲嶋 一



(仮称)薬学部新棟を建設予定!

平成32年12月末に完成予定である(仮称)薬学部新棟と、そのイメージ図の紹介をさせていただきます。この新棟は、1号館から爽風の庭を通り抜けた正面に建設される予定で、位置的には34号館(医療薬学教育センター)の南隣に建設されます。これまでの10号館・11号館・12号館にある薬学部施設の機能は、すべてこちらの新棟に移設する予定です。新棟は11階建てで、4階から10階までは主に薬学部の実験室や研究室として使用する予定です。その他にもラーニング・コモンズや学生がぐつろげるラウンジなど、すべての学生が広く利用できるスペースも設けられる予定です。また、大きな窓や吹き抜けの空間により、建物全体がとてもオープンで明るい雰囲気となるのも特徴です。特に、1階と2階に作られる予定のラーニング・コモンズは、学部・学科に関わらず、すべての学生や教職員が多種多様な用途で利用することができます。例えば、アクティブ・ラーニングスペースでは、グループワークなど少人数での活動を気軽にすることができます。さらに、コミュニケーションホワイエでは、企業の方々やOBの方々との交流や親睦を深めるイベントも開催することができます。

このように、薬学部新棟はより質の高い教育を実践する場としてだけではなく、学生のコミュニケーションの場として、またキャリア形成支援の場としてなど、多種多様な目的として利用できる施設になる予定です。今から完成が楽しみですね。

総務部 企画・文書課



薬学部新棟建設予定地



1階及び2階のラーニング・コモンズ（イメージ）



薬学部新棟外観（イメージ）



爽風の庭から見た薬学部新棟（イメージ）

第1食堂が「カフェテリア爽風」としてリニューアルオープン！

第1食堂といえば、学生や教職員の皆さんにはお馴染みの1号館1階にある食堂ですが、この度「カフェテリア爽風」という名前に変えてリニューアルオープンしました。今回は、平成29年7月3日(月)に行われたリニューアルオープンセレモニーの様子とともに、新しくなった「カフェテリア爽風」をご紹介したいと思います。

まずは、リニューアルオープンセレモニーの様子です。当日は早朝にもかかわらず、また日差しの強い中、多くの学生や教職員に集まっていただきました。鈴木省三副理事長並びに松田文子学長の挨拶、そしてテープカットが行われました。挨拶の中で、鈴木副理事長は「これからも学生のために、修学環境の整備充実に努めて参りたい。」と力強く語られ、また松田学長からも「カフェテリア爽風を、多くの学生の皆さんに利用してほしい。」と話されました。

続いて、内部の様子もご紹介します。今回のリニューアルでは、名前だけではなく内部のインテリアも一新しています。本学のロゴマークであるけやきの葉を統一のモチーフにしており、リニューアルした名前のとおり、全体的に爽やかな印象に様変わりしました。ひとりの時に利用しやすいカウンター席の設置や通路を今までよりも広く設けてあるなど、学生の皆さんのがより快適に過ごせるようなアイデアが多く加えられています。

今回のリニューアルによって、学生の皆さんのがより気軽に、そして楽しんで利用してもらえることを期待しています。

総務部 企画・文書課



体育館前に「つつじ坂」が完成!

平成29年7月18日(火), 体育館前に新しく「つつじ坂」という階段が完成しました。

まずは, つつじ坂の場所を説明します。つつじ坂は, 正面ゲートから学内へ上の道の途中にあります。これまで, 駐車場から体育館へ行くためには1号館前の記念広場を通り抜ける必要がありました。しかし, この階段ができることにより, 直接体育館へ行くことができるようになり, 階段の途中には街灯を設置しているので, 陽が沈んでも安全に利用することができます。

また, この階段につけられた「つつじ坂」という名称は, 松田文子学長による命名です。文字どおり, つつじに囲まれた階段であり, 来



年5月に学生たちは満開の花の中を通っていることでしょう。なお, このつつじ坂は, 体育館や武道館を利用する学生の利便性を向上させることに加え, 大規模災害発生時には学生や近隣住民が迅速に避難できるようにするために, さらには避難所として, 福山市の指定を受けている本学施設へのアクセスを向上させるために設置されています。

体育館や武道館を利用する学生たちには, とても便利な階段ですので, 是非ご利用ください。

総務部 企画・文書課



福山バラの酵母パン(福山大学ブランド第1号)を市販化!

生物工学科の分子生物学研究室(久富泰資教授)では, 平成25年度より福山市(包括協定)・(有)ぬまくま夢工房・(国)西日本農業研究センターと産学官の連携をベースとして, 地域特有な発酵食品の開発を進めています。具体的には, 100万本のバラの花で福山の市花であるバラの花に生息している野生酵母を分離して, その発酵性や遺伝学的特性を明らかにした上で, 上質でユニークなパンを開発するプロジェクトを展開しています。福山市園芸センターで栽培された50品種のバラから, これまでに1,305株の野生酵母を分離することに成功しています。これらの酵母の特性を詳細に解析した結果, 8株のバラ酵母がパン作りに最も適していることがわかりました。これらの酵母は食に関して安全であり, 焼き色・香り・柔らかさ・味わいにおいて, いずれも特徴のあるパンを創り出すことがわかりました。私たちは, これを「酵母の個性がパンの個性に現れる!」と表現しています。また, 西日本農業研究センターとの「パンの科学に関する共同研究」を通して, その秘密も明らかになりました。上記8株のバラ酵母で作ったパンを多くの方にモニターしていただいたところ, アロマテラピーという品種のバラから採られたアロマ酵母(学名:トルラスピーラ・デルプレッキー)は, 焼き色が淡くて甘みのある柔らかいパンを創り出し, 最も高い評価を得ました。そこで, 私たちは社会連携センターでの審査を通して, 正式に成果有体物提供契約を福山

市内の製パン4社と取り交わし, バラ酵母を用いたパンの製造と販売を開始しました。これは, 福山大学ブランド第1号として, 学長室ブログ(「福山バラ酵母のパン」初の福山大学ブランドを販売開始!! http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2017/03/blog-post_44.html)で紹介しています。このアロマ酵母はベーグルの製造に向いており, 伸びのあるもちもちした食感を示します。今年の3月と5月の販売会では, 福山市の本通り商店街にあるコミュニティースペース・アンブレラが拠点のベーグルツリーで製造したバラ酵母ベーグルが大好評で, NHKの夕方の番組(お好みワイドひろしま)でも放映されるとともに, 各種新聞や情報誌でも広く紹介されました。

今のところ, 酵母の準備量が限られるという問題もあって, バラ酵母のパンは数ヶ月おきにイベント的に製造・販売を行っています。これから数多くの製パン店やご家庭でのパン作りに活かしてもらえるように, 東京の会社と提携しながらバラ酵母のドライイースト化の研究・実用化を進めていきます。将来的には, 子どもたちに地元愛を感じてもらうために, 福山市内の学校給食の1つとしてバラ酵母のパンを提供できるようになりますと目論んでいます。

生物工学科 教授 久富 泰資



酵母の個性がパンの個性に!!



バラ酵母ベーグル

第43回 三蔵祭

三蔵祭を終えて

日増しに寒さが身にしみるようになり、温かい鍋やこたつが恋しい季節になりました。

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。三蔵祭が終わってからもう1ヶ月と少し経ちます。三蔵委員として3年間過ごしましたが、やはり、この1年間は特別で忘れられないカタチの思い出となりました。振り返ってみると、10月まではゆっくりと順調に進んでいましたが、10月に入ると直前の準備も増えて、いっきに慌ただしくなりました。しかし、今年は天気の悪い日が多く、作業も滞り、各部署ともにストレスもありました。さらに、台風の影響もあり、委員全体のモチベーションも不安でした。そんな中、みんなは手を止めることもなく、前日も夜遅くまで残って頑張ってくれました。両日ともにあいにくの天気でしたので、やはり一般の来場者数は例年より少なかったです。しかし、ライ

トミュージッククラブ、ダンス部、シルクハットをはじめ、模擬店を出店した団体や企画に参加してくれた学生たち、そしてアーティストのお陰で何とか盛り上げることができました。本当に感謝しています。

今年の三蔵祭3日間は、本当に濃い時間を過ごしました。最後の最後まで頑張ってくれた委員の皆さん、学生課をはじめとする大学関係者の方々、協賛していただいた企業の皆様、照明や音響業者の皆様、そして三蔵祭にお越しくださった皆様、すべての方々に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

来年も、今年以上に第44回三蔵祭が盛り上がるこことを期待しています。

第43回三蔵祭運営委員会 委員長 税務会計学科 3年 矢山 恵大



経済学部 日本語・英語プレゼンテーションコンテストでベトナム研修での経験を発表!

私は、今夏にトップ10カリキュラムの海外研修第1弾であるベトナム研修へ参加しました。これは「グローバル人材育成」のための教育プログラムです。三蔵祭では、第4回日本語・英語プレゼンテーションコンテストに飛び入りで参加し、ベトナムで経験したことについてパワーポイントを使って英語でスピーチしました。研修で私が一番印象に残ったのは、FTU(Foreign Trade University)の学生たちで



す。主に、6人の学生が私たちの研修を約2週間サポートしてくれました。まず、彼らに出会って最初に驚いたことは、彼らが完璧に英語を話せることです。私は衝撃を受け、自分の英語力の無さを痛感しました。彼らのすごいところは英語力だけではありません。彼らは自己肯定感がとても高く、しっかりとした意見を持っていて、常に物事に対して疑問を持っていました。一緒に行った企業訪問でも、これでもかというほど積極的に質問していました。そして、彼らはとても優しく私たちに接してくれました。私は、この研修を通して出会った人々から多くのことを学びました。自分がどれだけ小さい世界に生きていたかを思い知られ、自分の持っている可能性がもっと大きいことに気づきました。また、ベトナムでは日本と違うことがたくさんあり、今の日本の生活や周りの環境が当たり前ではないと実感することができました。このベトナムでの経験は、私にとって宝物です。英語によるスピーチの準備は大変でしたが、この数週間の研修がどれほど貴重な体験だったかをうまく伝えることができたと思います。

これからも様々なことにチャレンジして、その経験を多くの人に伝えたいと思います。

国際経済学科 1年 木村 優希

人間文化学部 「楽しんでもらう」って大変で楽しい!

今回の学科展示では、「メディア・映像学科 Created Collections 2017」と銘打って展開し、この夏に授業内で制作した映像作品を上映しました。前日準備まで教室を使ってのリハーサルができなかったので、ギリギリまでどういった雰囲気になるのか想像できなかったことが今回の一一番大きな山場だったと思います。

企画としては、9作品それぞれが色の強い作品だったので、教室は鑑賞エリアと展示エリアの2つに分け、音響も外付けのスピーカーを使用し本格的な上映会をイメージして企画しました。初めて学祭展示の企画をしたので、すること1つ1つが新鮮でした。客観的にすべての作品を見て、そこから順番を決め、各作品の尺を考慮しての再編成でしたが、何回も全体の構図を気にしつつ考へている時間が楽しかったです。3つのblockからなる構成での上映も、この時に思いつき企画自体にも色付けしました。できるだけ高いクオリティーで、足を運んでくれた人に楽しんで貰える空間を提供したかったので、細かい所までこだわりました。また、会場のセッティングも教室にある机や椅子の配置は長さを測って正確な構図をもとに設営し、展示ブー

スは自分たちが制作した脚本やセットを並べるなど、上映するものに関連した展示を意識しました。また、学科に寄贈された魚雷の模型を展示することもできて、学科のPRもできたのではないかと思います。

当日は悪天候だったものの、ちびっ子からご年配の方まで来場していただき、うれしかったです。正直とても大変でしたが、いい経験ができた三蔵祭でした。



メディア・映像学科 2年 安田 元気

工学部 三蔵祭への取り組み

私たちスマートシステム学科では、今年度の大きな試みとして模擬店と一般企画の両方に出演しました。模擬店では、3年次生の有志7名で“クロワッサンたい焼き”を出演しました。私たちは全員模擬店



出展の経験がなく、全部が一からのスタートだったので、本当に不安でした。2日間を通して、最初は売る方法も悪くメンバー間の協力も十分でなく成功とはほど遠いものでしたが、大きなポスターを作成する、大きな声で呼び込み

をするなどの改善方法を考えながら販売を行いました。その結果、大雨が降る中でも多くの来場者にお越しいただき、生産が注文に追いつかなくなるほどでした。そして、2日目には時間内に完売し、さらに模擬店グランプリでは「味覚部門優秀賞」をいただきました。初めての出展で不安もありましたが、多くの方々に「おいしい」と言っていたとき、本当に模擬店に出展した甲斐があったなと思いました。また、一般企画では1年次生が“レスキューロボットコンテストシーズジャー・ボリー2017 in 福山大学”というロボット競技形式でまとめ、工学部棟エントランスで来場者の方々に体験してもらいました。また、4年次のゼミ生は研究エリアで研究紹介を行い、人工衛星利用土砂災害予測システムや医療福祉用スマートベッド等が多数の見学者の興味を惹いていました。この一般企画は、1年次生と4年次生を中心に放課後や授業のない時間を利用して準備を進め、三蔵祭前日まで多忙な日々を過ごしていました。

今後も来場者の方々を楽しませるような、盛り上げができるような活動に挑戦しようと思っています。来年の三蔵祭も、是非ご期待ください。

スマートシステム学科 3年 勝部 雄介

生命工学部 身近なバイオに触れてみよう！

生物工学科では、「里山から始まるバイオサイエンス2017」と題し、普段、私たちが行っている学生実習の紹介の展示や体験実習コーナなどを企画しました。

学生実習の紹介では、福山大学の植生調査や実験で行った大学内またはその周辺の水質調査、金属イオンについてなど、いつもとは少し違う3年次生の企画となりました。事前に調査を行ったり、直前まで展示物を作成したりなど準備がとても大変でしたが、先生方のサポートもあり無事納得のいくものが完成しました。体験実習コーナーでは、実験用ガラス器具の加工技術を活かしたガラス細工体験を行いました。ガラス棒を加熱してトンボ玉作りを体験できる毎年恒例の人気企画です。作り方を来場者に説明するため、私たちも事前に練習を行いました。しかし、きれいに丸くならなかつたり、棒から外すときに取れなかつたり、割れてしまつたりとなかなかうまくいきませんでした。それでも回数を重ねて、何とか成功できるようになりました。当日は足元の悪い中、たくさんの方々にお越しいただき、体験していただくことができました。時間帯によっては、対応が追いつかなくなるほどの盛況ぶりでした。また、完成したトンボ玉はお土産として持ち帰っていただき、多くの方々に喜んでもらうことができました。

今年の三蔵祭も、生物工学科の特徴を前面に出した企画内容

で、多くの方々に楽しんでいただけたと思います。来年の三蔵祭は、さらにおもしろく個性あふれる企画になるとと思いますので、どうぞご期待ください。

生物工学科 3年 濑尾 怜香



ガラス細工体験の様子

薬学部 薬学部、今年も大成功!!!

私たち薬学部運営班は、10号館で体力測定やガラガラくじなどの様々な企画を行いました。体力測定では、昨年と同様に「骨密度測定」や「体成分」の測定を行いました。体力測定の他にも「体に関するクイズ」や毎年恒例の火傷に効く「紫雲膏」の配布、「熱中症と誤



飲時の対応」について企画展示を行いました。また、今年から初めて「ゲームコーナー」や「写真撮影ゾーン」を設けました。その結果、感想ノートでは、企画展示における好評な意見、またゲームコーナーや写真撮影ゾーンでは、例年よりもさらに大人から子供まで幅広い年代の方と楽しくコミュニケーションをとることができました。さらに、模擬店では2年連続のグランプリを狙い、今年もナンカレーとレモネードを販売しました。ナンカレーのカレールーは朝早くからみんなで作っており、運営班こだわりのカレーを使用しています。そのお陰で購入していただいた方々からは、大変好評でした。惜しくもグランプリをとることはできませんでしたが、見事完売することができました。これは運営班全員の頑張りのお陰です。ありがとうございました。

私たちの活動は、後期から三蔵祭までの約1ヶ月という短い期間でしたが、バーベキュークリスマス会などのイベントを通して学年関係なく仲を深め、今年度の三蔵祭も大成功を収めることができました。これは60名の運営班全員の協力のお陰だと思います。準備から当日まで大変なことも多々ありましたが、それを乗り越えることができ、今では達成感でいっぱいです。来年の運営班にも、是非ご期待ください。

薬学科 3年 川崎 岬

地域連携活動

「福山大学公開講座」について

福山大学公開講座が、福山大学と三原市中央公民館の2会場で、9月中旬から10月下旬にかけて「何もないとは言わせない！」という統一テーマで開講されました。本講座は、福山大学教員の研究成果を地域社会に公開し、社会の人々に、生活及び職業上の専門的な知識と一般教養を高める学習機会を提供し、生涯学習の振興と文化的、産業・経済的な発展に寄与する目的で開講されています。概要としては、福山市が魅力発信を目的に掲げるキャッチフレーズの「何もないとは言わせない！」を統一テーマとして、福山大学の研究者が日々の研究活動のなかで発見している備後圏域の様々な魅力や資源を、多角的観点から新たな研究成果やトピックスを交えながらわかりやすく紹介・解説しました。

テーマ及び講師は、次のとおりです。

回	福山	三原	講 座 名	講 師
1	9/16	9/20	まちの課題にスポーツができること	経済学部 中村和裕 助教
2	9/30	9/27	身近に迫る危険ドラッグに対する知識	薬学部 石津 隆 教授
3	10/ 7	10/ 4	絶滅の危機に瀕する備後蘭草と「備後表」	工学部 佐藤圭一 教授
4	10/14	10/11	なにもない（？）ところになにかをつくるために －アートの事例から－	人間文化学部 安田 晓 教授
5	10/21	10/18	福山をワインの街に！～福山大学ワインプロジェクト～	生命工学部 吉崎隆之 講師

また、閉講式において5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの延べ出席者数及び修了証書授与者数は、福山会場では延べ出席者数406人、修了証書授与者数63人、三原会場では延べ出席者数190人、修了証書授与者数32人でした。

来年度も、地域の方々への情報発信の場として貢献していきたいと思います。

総務部 企画・文書課

「備後経済論」について

『備後経済論』は、経済学部生が地元企業、さらに備後経済に対する理解を深めるとともに、就職活動の参考にすることを目的として地元企業の経営者等を講師に招き、企業立ち上げの苦心談、経営理念、若い世代へのメッセージ等を熱く語りかけてもらう形式の講義です。平成15年度より開講して以来、平成28年度までに地元企業経営者や業界団体関係者の招聘数は、計161名にも上ります。

平成29年度は昨年度に引き続き、担当者・世話人として、より多くの学生に備後地域のものづくりの醍醐味と革新性を伝えられるように、備後地域に生産活動の拠点を持つユニークな企業を選定し、企業訪問を行って講義の趣旨説明を重ねてきました。『備後経済論』が名物講義として企業経営者の間でも幅広く知られていることもあります。11名の企業経営者や地域関係者などからご快諾とご協力を得ることができました。

経済学部の「白熱教室」を目指して、学生に企業経営者をより身近に感じてもらい、また企業経営者などとのコミュニケーションをとれるよう学修システム(Cerezo)を活用しながら、質疑応答の時間を設けました。

けました。昨年度からの試みでしたが、学生の積極性が回を重ねて確実に高まっていると実感しました。

『平成28年度備後経済論講義録』は平成29年7月に刊行されており、在学生のみならず、地域の人々にとっても地域産業・地域企業を理解する生きた良き教材となっているように思いますので、幅広いご活用を願っています。

税務会計学科 准教授 張 楓



平成29年度『備後経済論』

■時間:木曜日4時限(午後2時40分から午後4時10分)※教養講座開催日は時間変更の場合あり
■場所:福山大学1号館01204教室

回	月日	氏名	社名	役職	主な事業内容
1	9月21日	張 楓	講義(はじめに)		
3	10月 5日	市川 紀幸	福山市経済環境局	経済環境局長	福山市経済政策の立案
4	10月12日	高村 亨	Fuku-Biz	センター長	備後圏域の企業・個人事業者・創業者の支援
5	10月19日	石原 雅也	(株)アイエスツール	代表取締役	ドリル・切削工具の再研磨
6	10月26日	梶原 聰一	(株)ブレヒマワリ	副社長	スーパードラッグストアの運営
7	11月 2日	岡崎 浩樹	(株)エブリイ	代表取締役	食の総合プロデュース企業
8	11月 9日	土居 祐介	(株)YPYエデュケーション	チーフマネージャー	人材育成のための教育事業、研修及びカウンセリングなど
9	11月16日	中島秀司郎	福山ゴム工業(株)	代表取締役	ゴム・合成シーツの製造販売、工業用ゴム製品の製造販売
10	11月30日	河田 将人	(株)シーケイス・チューキ	代表取締役	各種製材機械設備・搬送装置・リサイクル設備などの製造販売
11	12月 7日	佐藤 真之	(株)ユーホー	部長	ホームセンターの運営
12	12月14日	加藤 勝登	(株)カトウ精工	会長	金属切削加工
14	1月18日	寺本 安雄	広島県商業協会	元事務局長	商業業界振興、豊表検査業務
15	1月25日	張 楓	講義(おわりに)		



「2017 BINGO OPEN インターンシップ」について

今年度で8年目を迎えるBINGO OPEN インターンシップでは、学生一人一人の可能性を伸ばす貴重な学びの機会と捉え、他大学にはないインターンシップ合同企業説明会、事前研修、事後研修、学内発表及び備後4大学(福山大学、福山平成大学、尾道市立大学及び福山市立大学)によるインターンシップ合同成果報告会を開催し、実習での気づきや学びを確かな力として定着させる独自の研修プログラムを展開しています。

まず、平成29年5月にインターンシップ合同企業説明会を大学会館で開催しました。今年度は備後4大学の学生が、これまで最多の約600名が参加しました。企業も最多の52社が参加し、企業担当者から直接、企業のことやインターンシップの内容について説明を受けたり、質問をしたりと会場は若い熱気に包まれました。この合同企業説明会や募集要項をもとに、学生は自分の目的に合ったインターンシップ先を探し、志望動機や自己PR文を書く応募書類を作成し、学内選考と企業選考によりインターンシップ先の企業が決まります。今年度は、夏季休業中に延べ114名の学生が参加しました。

参加にあたっては、参加意欲の向上や参加目的の意識づけを行うために、直前の8月に事前研修を行いました。受入先の企業を大きく5つの業界に分け、各業界の代表的な企業の担当者から業界、企業、仕事及び受入に対する思いを説明してもらい、マナー研修や参加中の目標も設定しました。そして、インターンシップ期間中には毎日、モチベーションや目標設定の達成度の振り返りのレポートも作成しました。

参加して終了ではなく、実習後の9月には事後研修も実施しました。インターンシップの振り返りをグループワークで行い、他の学生と共有することで他の学生の経験と比較したり、自分の経験に他の学生からの視点を加えることで新たな気づきにつなげる機会としました。また、平成29年10月5日(木)と6日(金)に学内発表を実施し、インターンシップに参加した仲間や後輩に向けて体験談や成果を披露しました。その集大成として、平成29年12月2日(土)には備後4大学によるインターンシップ合同成果報告会を本学が主体となり開催

し、本学からは7名の学生が報告しました。今年度は、BINGO CAREER DAYとしてインターンシップ報告会にとどまらず、受入企業や高校生とともにインターンシップやキャリアについて考える機会となりました。

こうした一連のインターンシップ体験は、「自分の強みは何か」「自分に足りないものは何か」など、自分を客観的に見つめ直す機会であり、今後の大学生活や具体的な就職を念頭においたキャリア形成を考える機会となっています。

キャリア形成支援委員長 講師 津田 将行



「福山大学漢方研究会」について

「漢方薬で副作用死10人」という記事が、平成8年3月に新聞・テレビで一斉に報道されたをご存じでしょうか。漢方薬といえば、「身体に優しい副作用のない薬」という安全神話があつただけに、この報道はセンセーショナルなものでした。問題となった小柴胡湯は、科学的根拠に基づいて慢性肝炎での肝機能障害に広く用いられるようになり、使用者は100万人にも及び、その結果「間質性肺炎」という重

篤な副作用が発生しました。その発生頻度は、10万人に対して4人で、同じ治療薬であるインターフェロンの182人に比べると、小柴胡湯はむしろ安全な医薬品に分類されます。ただし、重大な問題点は、投与された患者さんの大半が小柴胡湯の対象ではない体力が衰えた慢性肝炎の症例であり、漢方薬のガイドラインである証を無視していたことです。漢方の教育は、平成13年に医学部で、その翌年に薬学部で始まりましたので、医療関係者の多くは漢方を十分に理解せずに使っていたことになります。まさに、この真っ只中に本会が発足しました。私は基礎研究を進める傍ら、医療薬学教育を標榜する本学部に何か貢献できないかと模索していた折に、漢方薬を適正に使用できる薬剤師を育成したいという小林宏先生の心意気にお会いしました。そして、4ヶ月後の平成7年9月から小林先生による『漢方勉強会』(年8回)が、多くの学生が集う大変好評な課外講座として始動しました。翌年、小林先生を本学の非常勤講師に迎えて正規授業となつた漢方講義は、全国有数といわれる本学の漢方教育の礎となりました。当時、教員はもとより医療関係者の多くが漢方に懐疑的で、私としてはまさに清水の舞台から飛び降りるような心境で、末科学な漢方の教育・研究に飛び込みました。無論、漢方に対する学生の関心の高さが、強い後押しとなったことは言うまでもありません。漢方勉強会は、薬剤師の方々の強い要望に応え、平成15年から日本薬剤師研修センターと福山市薬剤師会共催の『福山大学漢方研究会』として、毎月1回(17:30~19:00)初級から応用編まで24コマの2年サイクルで開催されるオープン講座に発展しました。また、平成21年には会場を学校法人福山大学宮地茂記念館に移し、薬剤師を中心に学生や医療関係者が県内外から毎回100人前後参加しています。さらに、年々、医師の参加数も増え、本会が漢方薬の適正使用に役立っていると確信しています。この会が盛況に続けてこられたのも、小林先生のわかりやすい魅力的な講義の賜と本当に感謝しております。

薬学科 教授 岡村 信幸



国際交流瓦版

2017年

- ◆国際センター留学生部運営委員会、留学生会、国際経済学科共催でしまなみ海道サイクリングロードにてサイクリング大会を開催。瀬戸内の美しい自然を満喫。



(6月4日)

- ◆国際センター留学生部運営委員会の主催で、第2回留学生による多国籍料理教室を開催。日本人学生や教職員及び市民約30名が参加し、レ・マンリンさん(国際経済学科/2年/ベトナム出身)指導の下、ベトナムの名物料理「フォー」と「ベトナム風サンドwich」を料理。



(6月17日)

- ◆英国・ウォーリック大学のJonathan French氏が来学し、本学の国際センター国際交流部運営委員会の委員と意見交換。



(6月19日)

- ◆広島県日中親善協会の平成29年度総会に、富士彰夫副学長が出席。交流会では、張斌さん(税務会計学科/4年/中国出身)も出席。

(7月6日)

- ◆(公財)ひろしま国際センター奨学金決定授与式・交流会に、柴天鶴さん(経済学研究科/2年/中国出身)ら3名が、李森国際センター留学生部長と出席。



(7月11日)

- ◆李冠挺さん(経済学科/4年/中国出身)ら2名の留学生が、盈進中学校・高等学校の『24時間英語合宿』に英語のティーチングアシスタントとして参加。

(7月27日・28日)

- ◆アメリカ・カリフォルニア大学リバーサイド校での4週間集中英語研修プログラムに、前原啓太さん(経済学科/2年)が、3週間英会話・アメリカ文化研修プログラムに、川上皓太郎さん(機械システム工学科/1年)ら3名が参加。



- ◆イレーナ・アリバデスさん(人間文化学科/交換留学生/ブルガリア出身)や石井あすかさん(人間文化学科/3年)ら中・長期交換留学経験者を交えて、富士彰夫副学長や大塚豊副学長との座談会を開催。



(8月9日)

- ◆「ふるさと本郷夏祭り」実行委員会からの招待により、留学生9名が夏祭りに参加。



(8月14日)

- ◆平成29年度後期入学式が挙行され、11名の編入学生及び5名の交換留学生が入学。



(9月19日)

- ◆国際センター留学生部主催『広島地域視察ツアー』へ、趙建紅国際センター留学生部副学長の引率の下、29名の留学生が参加。広島県の二大世界遺産である原爆ドームと厳島神社を視察。



(9月30日)

- ◆オーストラリア・アデレード大学のDavid Ottawa氏が来学し、同大学での来春の語学研修プログラムを紹介。学生及び教職員約50名が参加。



(10月13日)

- ◆国際ソロプロヂミスト福山の招待により、福山ニューキャッスルホテルで開かれた『みて ふれて 楽しい文楽入門講座』に、趙建紅国際センター留学生部副学長の引率の下、日本人学生及び留学生の合計17名が参加。

(10月21日)

- ◆(公財)熊平奨学文化財団の平成29年度第2回交流会へ、王策さん(経済学研究科/2年/中国出身)が、李森国際センター留学生部長と出席。

(10月23日)

- ◆中国・華東交通大学から羅学長他4名が来学し、松田文子学長を表敬訪問され、香川直己工学部長らと工学部を主とした意見交換会を開催。また、内田博志機械システム工学科長が講演。その後、工学部の施設見学。



(10月24日)

- ◆オーストラリア・サザンクロス大学のKazuhiro Araki氏が来学し、同大学を紹介。



(10月27日)

- ◆第43回三蔵祭で、留学生会が模擬店を出店し、水餃子を販売。

(10月28日・29日)

- ◆国際センター留学生部、留学生会、福山大学孔子学院共催で、『第8回日中学生クイズ大会』及び『日中学生交流クイズ大会』を開催し、日本人学生及び留学生の合計33名が参加。また、「白雪姫」を日本人学生が中国語で熱演。

(10月28日)

- ◆国際センター国際交流部主催で、『第4回日本語・英語プレゼンテーションコンテスト』が開催され、日本語の部に4名、英語の部に8名が出席。日本語の部では、ペトロフ・マルティンさん(人間文化学科/交換留学生/ブルガリア出身)が『ブルガリアの伝統行事』で、英語の部では、藤元慧さん(税務会計学科/4年/中国出身)の*I saw, I came, I feel no regret*と萩龍太郎さん(海洋生物科学科/3年)の*Adopting entomophagy for future*が、それぞれ最優秀賞を受賞。



(10月29日)

学務部 国際交流課

学友会短信

【サッカー部】

- 4月29日～11月5日
2017年度中国大学サッカーリーグ(1部)準優勝、この結果、12月13日から開催される平成29年度第66回全日本大学サッカー選手権大会への出場権獲得
- 6月3日～11月3日
Iリーグ中国2017出場
- 11月3日～23日
第1回平成29年度中国大学サッカー連盟新人戦優勝、この結果、12月19日から開催される第1回全日本大学サッカー新人戦への出場権獲得

【硬式野球部】

- 9月2日～10月25日
平成29年度中国六大学野球秋季リーグ戦出場

【陸上競技部】

- 6月24日～25日
第71回広島県陸上競技選手権大会出場
- 7月16日
広島県東部記録会
- 9月23日
第49回全日本大学駅伝中国四国予選会出場
- 10月15日
第4回広島県東部記録会

【剣道部】

- 7月2日
第11回広島県学生剣道選手権大会出場
- 7月21日～22日
第51回全日本女子学生剣道選手権大会出場
- 第63回中四国学生剣道優勝大会兼第44回中四国女子学生剣道優勝大会出場

【卓球部】

- 8月28日～30日
第68回中国学生卓球選手権秋季大会出場

【ラグビー部】

- 10月1日～22日
広島県ラグビーリーグ戦出場

【ソフトテニス部】

- 8月28日～30日
全日本大学対抗王座決定試合中国四国地区大会出場

【軟式野球部】

- 9月4日～7日
平成29年度西日本地区学生軟式野球秋季II部リーグ優勝

【スポーツ雪合戦】

- 7月9日
第8回福山オープン雪合戦交流大会出場

【弓道部】

- 6月17日
第41回広島県学生弓道親善試合出場
- 8月12日～14日
第65回全日本学生弓道選手権大会出場
- 8月27日
第44回那須与一西日本弓道大会出場
- 10月18日～21日
第63回中四国学生弓道選手権大会出場

【柔道部】

- 5月27日
全日本ジュニア男女柔道体重別選手権大会広島県予選会出場
- 8月25日～26日
中国四国学生柔道体重別選手権大会出場

【シルクハット】

- 6月23日
山手学区放課後子ども教室
- 7月1日
見学会オープニングセレモニー
- 8月5日
キャステム夏祭り2017
- 8月13日～14日
コロナワールド パフォーマンス
- 8月26日～27日
地域夏祭り(福山市曙町:虎屋本舗)

【YRC(ボランティア)部】

- 6月3日
田植え
- 6月18日
第76回クリーンウォークin福山
- 6月26日, 9月10日
芦田川清掃
- 7月8日
第15回わいわいフェスタまつなが
- 7月8日
第77回クリーンウォークin福山
- 8月26日
特別養護老人ホーム 新山荘 夏祭り
- 10月1日
riverside groove'17
- 10月8日
稲刈り
- 10月8日
UP TO YOU. 2017 ~MOVIE'S~

【モノづくり倶楽部】

- 8月17日～18日
全日本製造業コマ大戦 福山鬼日向場所2017

【ストリートダンス】

- 6月25日
新・回転新書 Vol. 5～
- 7月8日
Can you feel the foce !? Vol. 7
- 9月2日
5 vs 5 HIP HOP NEW scoul jam 日本予選

【二輪部】

- 6月25日
2017キャンパスオフロードミーティング 西日本大会 R1 エンデューロ
- 7月30日
ビギナーズエンデューロ
- 8月20日
JNCC 8時間耐久 エンデューロ
- 10月8日
2017キャンパスオフロードミーティング 西日本大会 R2
- 10月13日～15日
ロードレース世界選手権大会(moto GP)

【Light Music Club】

- 6月16日～18日
アラハタ(6大学合同ライブ)

【吹奏楽部】

- 8月27日
第24回ふれあい音楽祭
- 9月30日
ニーチェ祭り
- 10月12日
交通安全運動(西武市民センター)

【ユースホステル部】

- 6月3日～4日, 6月17日～18日
ジュニアリーダー養成講座 (ZENRYOKUチャレンジ)参加
- 8月17日～18日
平成29年度サマー・キャンプ参加

【学友会】

- 7月5日, 10日, 10月19日
リーダーズ会議
- 6月24日
第56回ラブロックセミナー参加
- 10月27日
秋季学長杯争奪競技大会

学務部 学生課

サッカー部の学生がU19全日本大学選抜チームに選出され、海外遠征！

経済学科1年次生の泉勇也さん(島根県・立正大学湘南高等学校出身)が、U19全日本大学選抜チームへ選出され、平成29年9月20日(水)から韓国の太白市で開催された「アジア大学サッカートーナメント」へ参加しました。本大会は、アジア大学サッカー連盟の設立を記念して昨年より開催され(昨年の同大会には、本学サッカー部の的場千尋コーチが全日本大学選抜コーチとして参加)、2回目となります。現在、Jリーグの新入団選手は大学出身の選手が最も多くなっています。全日本大学サッカー連盟では、より多くの選手をJリーグへ送り出すための強化策として、さらには学生時代により多くの経験をさせて人間的な成長を促すと積極的な海外遠征を実施しています。今回は、入学直後の1年次生に国際大会を経験させ、今後の強化につなげていくことを目的に実施しました。平成29年8月に全国から約70名の1年次生が招集され、早稲田大学にて選考会を実施、そこで2チーム分の選手を選考し、韓国へ派遣しました。本大会では、日本・韓国・イラン・マレーシア・タイ・フィリピン・台湾が参加し、泉さんが選抜された全日本WEST(東海・関西・中国・九州地区の大学選抜)は、韓国・タイ・マレーシアとのグループリーグを突破できず予選敗退となりました。自身はタイ戦にスタメン出場するなど、3試合に出場し多くの経験を積んだようです。しかし、別リーグを戦った関東の大学に所属する選手を中心に選出された全日本

EASTは、グループリーグを全勝で勝ち上がり、決勝では全日本WESTが予選で0-3と完敗した韓国チームに勝利して優勝を飾りました。泉さんの話では、海外選手ではなく日本国内の同じ大学生に対して大きなレベル差を痛感したようです。(試合結果の詳細は全日本大学サッカー連盟のホームページを参照 <http://www.jufa.jp/>) 帰国後は、1年次生ながらトップチームで活躍しリーグ戦でも貴重な得点をあげてくれました。また、試合での活躍だけではなく練習に取り組む姿勢も変化し、仲間とのコミュニケーションもさらに向上、そして何より成長したいという意欲は以前にも増して大きなものとなり、他の部員にとっても良い影響を与えてくれています。今回の選考によって目標がより明確になったようですので、さらに努力を重ねてより大きな選手へと成長してくれる期待しています。今後の泉さんの活躍とサッカー部の躍進を見守っていただければと思います。

経済学科 准教授 吉田 卓史



「第10回連合・ILEC幸せさがし文化展」写真の部にて、連合大賞を獲得！

メディア・映像学科1年次生の津島良伍さんが、公益社団法人教育文化協会(ILEC)主催の「第10回連合・ILEC幸せさがし文化展」写真の部にて、同部門に全国から応募があった516点の中から作品が選ばれ「連合大賞」を受賞しました。

津島さんは、本学科主催の「高校生CMコンテスト」でも写真・ポスターの部で賞を獲得するなど、入学前からその力を発揮しておりましたが、今回はより大きな賞を獲得しました。津島さんの活動について、本人の言葉から紹介します。「コンテストに応募することは、自分自身の表現活動において大変意義のあることと位置づけており、様々な情報をチェックしています。受賞作は、働く人々を被写体として取材させていただき、撮影しました。鴨方そうめんの門干しは、地域性や季節の風物詩としても最高だと思います。この取材に際しては、冬晴れの朝を狙い、事前に職人さんに連絡を入れ、当日は早めに伺ってお話をしながら門干しの時間を持ったことなどが、出会いを大切にした撮影につながったのではないかと思います。撮影では、働く方の表情を描くことを主にしたかったので、広角レンズを使用し、邪魔にならないように寄らせていただいて撮影しました。私の写真は、スナップや風景撮影が多いのですが、他ジャンルにもチャレンジしながら発表をこれからも続け、見ていただく方に感動していただけることや幸せな気持ちになってもらえる作品づくりをしたいと考えています。そのためにも、日常の中で発見や驚き、感動する心を持ち続けたいですし、写真集や写真展を開く目標に向けても頑張りたいです。また、メディア・映像学科で学ぶことで、写真の芸術としての価値やカメラ

という媒体の変遷を学びながら、独りよがりではなく幅広い表現・技術を身につけたいと思います。写真と映像(動画)は境界がなくなっていることもありますので、静止画にこだわらず映像作品を制作し、発表媒体も探していくみたいです。」

津島さんの受賞作『一本一本に想いを込めて』は、公式サイト(<https://www.rengo-ilec.or.jp/event/10culture/photo/index.html>)でも見ることができますので、是非ご覧ください。また、津島さんの作品は、雑誌「日本カメラ」などの月例写真の学生部門でも度々賞に選ばれ、年度賞にも選出されています。

本学科では、学生の学外での活動も応援しています。学生たちは、これらにお互い刺激を受けあいながら、研究や制作にチャレンジしています。本学科の学生たちの、様々な活動にこれからもどうかご期待ください。

メディア・映像学科 教授 安田 晓



平成29年度電気・情報関連学会中国支部連合大会に、今年多くの研究が発信されました！

平成29年10月21日(土)に、「平成29年度電気・情報関連学会中国支部連合大会」が岡山理科大学にて開催されました。本大会は、学会の発表会ですが、電気・情報関連の複数の学会が共同して行う大会です。講演数は約250件で、大会参加人数は500人を超えるという大きな大会です。今年も情報工学科からは、情報処理、計算機応用、教育など様々な分野の部門で多数の学生が参加しました。学生は、日頃の研究成果を発表する場として立派に発表していました。4年次生は、日頃から工学部棟の情報工学科研究エリアで分析するだけでなく、HCI実験室やプロジェクトルーム、またエレベーター前のエントランスで実証実験した結果など、学内の研究機器や施設を活用した研究成果について発表してくれました。その一部を紹介したいと思います。竹本一哉さんは「屋内避難時における携帯端末への通知による誘導効果の検証」という題目で、実際に開発した通知システムとその評価結果について、デモをmajieて発表してくれました。また、木戸瑛一さんは「車内システムにおける非接触操作

の受容性検証」という題目で、自動運転実現後の操作として非接触操作に慣れることができるのか、また慣れるにはどれくらいの試行回数が必要かについて発表してくれました。また、今回は3年次生も発表



したいと手を挙げてくれました。普段、受けているアクティブ・ラーニングの授業を題材に、その演習の改善について、教員や大学院生、さらに4年次生の先輩も巻き込んでアンケート結果を分析して、発表しました。小畠祐里さんは「自学自習教育システムにおける品質評価プロセスの検討」という題目で、実際に受講した自学自習教育システムの改善案を提案しました。富岡元さんは「アクティブ・ラーニングにおける貢献度と評価方法の分析」という題目で、実際に受講したグループ演習に個人の貢献度も反映するとしたら、自己評価と他己評価を組み合わせると良いという研究成果でした。

外はあいにくの雨でしたが、情報工学科の関係者がたまたま集まっていたので、記念撮影を行いました。発表後でしたので、皆さんすっきりした顔をしています。お疲れ様でした。

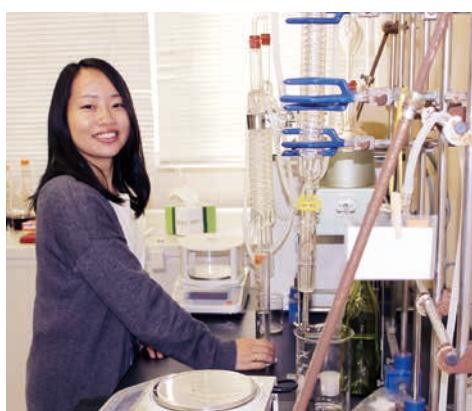
情報工学科 准教授 中道 上



さんぞうの赤ワイン(福山大学ブランド第2号)の市販化と学生による酵母研究！

生物工学科では、平成26年度から学科のコンセプトを「瀬戸内の里山からはじまる食と環境のバイオサイエンス」と規定し、人と自然が共生する豊かな循環型社会の形成を目指した教育・研究を展開しています。その中心をなすものが「福山大学ワインプロジェクト」であり、ブドウの栽培(一次産業)からワインの醸造(二次産業)までを一貫して学び、さらにはプロダクトの流通・販売(三次産業)までを見据えた六次産業化のモデルを構築しています。このプロジェクトの推進には、生物工学科がこれまで築いてきたバイオの教育力・研究力が集約されています。日本では、果実酒の試験製造免許のものにアクティブ・ラーニングを含むブドウ栽培・ワイン醸造を系統的に学べるのは、東の山梨大学と西の福山大学だけです。一方、生物工学科の分子生物学研究室では、これまでに福山を象徴するバラの花から製パン

に適した8株のバラ酵母を選定することに成功しています。また、ブドウの一大産地である福山市沼隈町で無農薬栽培されたニューベリーAから、23株の発酵性の高いブドウ酵母(学名:サッカロマイセス・セレビシエ)を分離しています。そこで、私たちは



醸造試験中の唐川さん

「福山大学ワインプロジェクト」のもとで、地域に眠る宝(野生酵母)による地域特有な上質ワインを開発すべく、上記のバラ酵母とブドウ酵母を用いてワインの醸造試験を行いました。その結果、ミスター・リンカーンというバラの品種から分離したリンカーン酵母(学名:サッカロマイセス・セレビシエ)と3株のブドウ酵母が最も上質なワインを醸し出すことを明らかにしました。

平成28年9月末に、せらワイナリーにて赤ブドウ(マスカット・ベーリーA)を材料として、上記4株の酵母を用いて醸造を開始し、約9ヶ月の熟成期間を経て、福山大学ブランド第2号として市販化されたワインが「さんぞうの赤」です。このワインは飲み口が爽やかで雑味がなく、イチゴのような甘い香りを発するのが特徴で、好評のうちに完売しました。本年度、4年次生の唐川瑞季さんは「さんぞうの赤」の製造に用いた4株の酵母に関する、ワインの醸造特性の研究を進めています。これら4株の酵母は、ワイン醸造に必要な亜硫酸に対して、十分な耐性を示しながら発酵を完遂することや強いアルコール耐性を有することが判明し、これらの酵母がワイン醸造に最適であることが立証されました。唐川さんは、平成29年11月に島根県出雲市で開催された「日本ブドウ・ワイン学会」で、その研究成果を発表しました。



さんぞうの赤

生物工学科 教授 久富 泰資
教授 山本 覚
講師 吉崎 隆之

薬物乱用防止を目指した劇団「危防」の活動!

昨年に引き続き、福山新市ライオンズクラブからの要請により福山市立新市中央中学校で薬物乱用防止の劇を行うことになりました。そこで、私を顧問として、2・3年次生の有志12名からなる劇団「危防」を再結成しました。「危防」というのは危険ドラッグ防止の略で、希望へとつなぐことを意味しています。今年は、座長を3年次生の田中麻貴さんが務めることになりました。まず、薬物乱用防止の劇を行うには、前もって薬物乱用防止教育認定講師養成講座を受講しなければなりません。そこで、平成29年9月3日(日)に福山市内で開催された講座を3年次生の7名が受講し、講師としての認定書を得ました。早速、劇団員が集まり、劇の運営方針について協議しました。そこでは「どうすれば薬物乱用防止について上手く伝えることができるのか」ということに議論が集中しました。その結果「薬物乱用はどれほど怖いのか」「薬物乱用に巻き込まれないようにするにはどうするべきか」ということについて、ステージ上で繰り広げるストーリーを通して中学生に呼びかけることにしました。このような考え方のもと、座長の田中さんが2つのストーリーからなる劇の台本を作りました。最初の劇は、仲のいい女の子の3人組がいて、そのうちの1人が覚せい剤を他の2人に言葉巧みに勧めるというものであり、もうひとつの劇は、先輩が後輩に無理やり覚せい剤を勧めるというものでした。それぞれの劇の後で、このような時はどうやってそれぞれの誘いを断るかについて、観客も交えてみんなで考えてみました。また、劇の合間には「乱用薬物の入手ルート」「乱用薬物への依存」「乱用薬物の種

類と隠語」「乱用薬物の誘いへの上手な断り方」などについての説明や実演も織り交ぜることにしました。劇で使う小道具や衣装は「危防」のメンバーの手作りで、劇の練習は講義終了後や休日を利用して12号館1階の大学院講義室を借りて行きました。

このようにして、今年は平成29年12月1日(金)に新市中央中学校の全校生徒にこれまで練習してきた劇を披露しました。鑑賞した生徒からは「劇の内容がわかりやすく薬物乱用の怖さがよくわかりました。」「危険な薬物の誘いにはしっかりと断ることの大切さを学ぶことができました。」などという感想をいただきました。また、先生方からも「薬物乱用防止を伝えていくことの大しさがわかりました。」という感謝の言葉をいただき、団員一同このような劇を通して薬物乱用防止ということで地域貢献ができたことに喜びを感じているところです。

薬学科 教授 石津 隆



第65回全日本学生弓道選手権大会へ出場!

弓道部が、平成29年8月12日(土)～14日(月)にかけて開催された「第65回全日本学生弓道選手権大会」へ出場しました。この大会の団体戦の部はオープン参加で、男子199チーム、女子211チームで競います。しかし、個人戦の部は、同年6月に開催される地方予選で基準をクリアした学生のみが参加できる仕組みになっています。今回、全国の地方予選を勝ち抜いた個人戦出場者は、男子は537名、女子は321名でした。なお、地方予選を勝ち抜く基準ですが、4射3中(男子:1手目2射1中以上+2手目2射2中、女子:4射3中)以上の的中を残せれば、全国大会へ出場できます。本学からは、立神直輝さん(海洋生物科学科3年次生)と下村知恵さん(海洋生物科学科2年次生)が地方予選の基準を突破し、全国大会への出場権を獲得して個人戦に出場しました。全国大会は、初日に男



女の団体戦予選があり、2日目に男女の個人戦決勝、3日目は団体戦と個人戦の決勝が行われます。男子団体戦は、1チーム5人のメンバーで各自1本づつ、順に4本射った合計20本の的中数で予選通過が決まります。結果は、20射10中で予選通過とはいきませんでした。女子団体戦は、1チーム3人のメンバーで各自1本づつ、順に4本射った合計12本の的中数で予選通過が決まります。結果は、12射5中でこちらも予選通過とはいきませんでした。男女個人戦決勝では、男女ともに1手目(2本)を詰めて、その後は1本づつ射っていきます。下村さんは、順調に1段目、2段目、3段目と進んでいきましたが、4段目で外して22位タイという結果に終わりました。男子個人予選に出席した立神さんは、1手目で敗退しました。

今回はこのような結果に終わりましたが、参加した学生たちにとっては貴重な経験となりました。弓道の基本である「射法八節」を重んじ、自分と向き合い、弓道と向き合い、日々の練習を重ねて、弓道部一同これらからも頑張っていきます。今後の弓道部の活動にご期待ください。

弓道部顧問 片桐 重和

第51回全日本女子学生剣道選手権大会へ出場!

平成29年7月22日(土)に、大阪市のエディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)にて開催されました第51回全日本女子学生剣道選手権大会に、国際経済学科2年次生の小山美幸さんが出場しました。小山さんは、予選となる第49回中四国女子学生剣道選手権大会(平成29年5月21日(日)に愛媛県武道館にて開催)に出場し、ベスト16で敗退したものの過酷な敗者復活戦を鬼気迫る試合運びで戦い抜き、128名中のベスト10に入り、福山大学剣道部として久しぶりの全国大会出場の切符を手繕り寄せました。迎えた本大会は、全国の地区予選を勝ち抜いた90名の学生が集い、鍛錬の成果を競いました。初戦の相手は法政大学の西口真琴選手で、全国高校総体において団体と個人で勇名を馳せた強者です。両者の手に汗握る一進一退の攻防は、制限時間内では決着がつかず、延長戦になりました。結



西口選手と激しい間合いの攻防を繰り広げる小山さん

果、一瞬の隙に胴を取られ、一本負けで惜しくも敗退となりました。なお、西口選手は最終的に第3位となりました。残念な結果ではありましたが、精一杯の戦いをしてくれたと感じています。先に書きましたように、嘗ては常連であったものの、近年拒まれ続けていた全国大会の壁を突破してくれたことは価値あることです。

現在、剣道部は今月中四国学生剣道新人戦と全日本学生剣道オープン大会に向けて、練習を重ねています。彼らの努力に幸あらんことを祈っています。そして、そろそろ古豪復活とまいりたいところですので、引き続きの応援をよろしくお願い申し上げます。



稽古相手として同行した後輩の今井さんと大看板の前で記念撮影

剣道部顧問 香川 直己

飯田義直先生のご逝去を悼んで

平成29年6月21日逝去

飯田義直名誉教授が、平成29年6月21日(水)に逝去されました。先生は大正13年5月生まれで、享年93歳でした。

飯田先生の経歴について紹介させていただきます。飯田先生は、昭和24年3月に京都大学工学部電気工学科を卒業され、昭和25年5月に大阪府立大学工学部電気工学科に採用され、研究者として第一歩を踏み出されています。その後、昭和30年10月に松尾電機株式会社の研究課長として採用され、昭和42年7月に株式会社村田製作所開発課長として転職され、昭和47年4月に技術担当常務付主任研究員に昇任されています。この間、温度の非接触測定やサーモグラフィなどに不可欠な赤外線の検出素子などの電子・電気材料の研究に取り組まれました。この研究業績を纏められ、昭和53年8月には京都大学から「焦電形赤外端子用チタン酸鉛系磁器に関する研究」の論文で工学博士が授与されています。その後、昭和54年4月に福山大学工学部電子・電気工学科に教授として就任せられました。平成10年3月に定年退職され、同年4月に特任教授として授業をそのまま継続され、平成11年3月に退職されました。さらに、同年4月には名誉教授の称号が授与されています。飯田先生は、昭和54年に福山大学に赴任されて以来、主な講義科目として電気磁気学や確率・統計の授業等を担当されて

おり、企業の経験を活かして常にわかりやすい授業を目指しておられました。また、確率・統計の授業では、教科書を自作して学生に配っておられ、熱意を持って授業をしておられました。昭和54年当時は、第1期生が卒業して大学院工学研究科電子・電気工学専攻修士課程が設置された時でしたが、飯田先生の大学院でのご担当は、先生の研究分野でもあります電子・電気材料でした。飯田先生からは、会社での経験談や戦時中の思い出などを個人的によく聞かせていただきました。講義後には、電気準備室でコーヒーを飲んでおられた姿を思い出します。学生や教員には明るく、そして優しく接しておられ、慕われる存在でした。

飯田先生のご逝去に接し、にこにこと談話されている姿を思い出しながら、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

スマートシステム学科 教授 三谷 康夫

高橋衛先生のご逝去を悼んで

平成29年6月30日逝去

高橋衛名誉教授が、平成29年6月30日(金)に逝去されました。享年87歳でした。

高橋先生の略歴を紹介いたしますと、昭和29年3月に広島大学政経学部を卒業後、東京大学大学院社会科学研究科修士課程で学ばれた後、昭和35年4月より広島大学政経学部で教鞭を執られました。本学へは平成5年4月に赴任され、その後、平成7年4月からは附属人間科学研究センター長、同年9月からは経済学部長、平成12年4月からは大学院経済学研究科長を歴任され、平成15年3月に本学を定年退職されると同時に、同年4月より名誉教授の称号を授与されております。このようにしてみると、本学へは10年余りにわたり、要職をもってお勤めいただきました。私は広島大学の大学院で学びましたが、当時は専門分野が異なることもあり、高橋先生の講義を直接お聞きすることはありませんでした。当時は、多くの大学院留学生が高橋ゼミに所属していた記憶があります。今から思えば、高橋先生の融通無碍なお人柄ゆえに多様な留学生が集まっていたのであろうと推測いたします。私が本学に奉職した時にはすでに経済学部長をされており、当時の思い出としては、新入生合宿オリエンテーションには必ず顔を見せられるなどしておられたのが印象に残っています。天国においても名伯樂として

悠々自適でおられることでしょう。

高橋先生のご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

国際経済学科 教授 尾田 温俊

後援会情報

三蔵祭(大学祭)期間中の平成29年10月28日(土)の午前11時から、福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。森静会長の挨拶に続いて、松田文子学長の挨拶があり、その後、会長・副会長・監事・理事の自己紹介を行い、9月初旬に全国16会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、平成29年度理事から副会長が新たに選出されました。また、期間中は大学会館前に後援会関係者の休憩用テントも設置されました。

総務部 庶務課



森会長

平成29年11月13日(月)より「100円朝食サービス」が、カフェテリア爽風でスタートしました。2年前より朝食サービスは提供していましたが、価格を200円から100円(洋食セットと和食セットの2種類から選択)にして、より学生が利用しやすい内容へとリニューアルしました。このサービスをきっかけに、健康的な生活習慣を身につけていただければと思います。なお、このサービスは後援会から一部ご支援をいただいており、さらに多くの学生が利用することを期待しています。

総務部 企画・文書課



入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を平成29年6月5日(月)～9日(金)及び6月29日(木)の計6日間、中国・四国・九州・沖縄の10会場で開催しました。本学では、大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で因島キャンパスや各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学宮地茂記念館で両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計12県102校104名でした。

◆2017 Open Campus(見学会・体験入学会)

毎年恒例のOpen Campusを開催しました。

◇福山大学 参加者数

見学会	開催日	高校生	保護者	計	体 験 入学会	開催日	高校生	保護者	計
	7/ 1(土)	161	107	268		7/16(日)	360	233	593
	9/16(土)	150	92	242		8/20(日)	556	318	874

◇福山平成大学 参加者数

見学会	開催日	高校生	保護者	計	体 験 入学会	開催日	高校生	保護者	計
	6/24(土)	65	37	102		7/23(日)	185	83	268
	9/ 2(土)	97	48	145		8/19(土)	251	104	355

※なお、春のOpen Campusを両大学とも平成30年3月17日(土)に開催します。

平成30年度前期入試A日程【特別奨学生A選抜含む】

試験のある学部	福山大学		福山平成大学	
	経済学部・人間文化学部・工学部 生命工学部・薬学部	経営学部・福祉健康学部・看護学部		
出願期間	平成30年1月5日(金)～1月25日(木)消印有効			
試験日	平成30年1月31日(水)～2月3日(土)※試験日自由選択制			
合格発表日	平成30年2月9日(金)			
試験地	【1/31～2/3】本学(福山大学・福山平成大学)・福山(宮地茂記念館)・岡山・広島・山口・福岡 【1/31】鳥取・浜田・宮崎 【2/1】米子・大分 【2/2】静岡・京都・熊本 【2/3】名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】松江・高松・今治・小倉			

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入

学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生を除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

編集後記

雨や台風が多かった今年の秋でしたが、学内では多くのイベントや出来事がはじめ、大イベントである三蔵祭の様子や様々な地域連携活動などをお伝えすることができました。また、10月に開催された三蔵祭は生憎の雨でしたが、多くの方々にお越しいただきました。その中で頑張る学生の姿をお伝えできたと思います。さらに、頑張る福大生のコーナーでは、学内外で活躍する学生の姿を紹介することができました。今後も、本学の様子をわかりやすく伝えていきたいと思います。

発行 福山大学

編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>